

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それを上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

社会学プログラム

履修のしかた

「導入」カテゴリーの「社会学の理論と応用」は、メジャー、マイナーとも必修です。また、社会学プログラムの科目には入っていませんが、「社会学概論」と「社会探究(戦後日本の社会変動)」は1年次に履修しておいた方がよい科目です。特に、「社会学概論」は、「社会学の理論と応用」の先修条件になっていますので、注意してください。

2年次には、「理論・方法」カテゴリーのうち、まず「社会調査法 A」「社会調査法 B」と「社会学史 I」「社会学史 II」を履修しておくといでしょう。これらの科目は、メジャーの場合は必修です。マイナーの場合は選択ですが、履修することをお勧めします。また、「社会学史 I」は「社会学史 II」の先修条件になっていることも留意しましょう。

「理論・方法」カテゴリーには、「比較社会学 A」「比較社会学 B」と「社会学史 I」「社会学史 II」といった理論系科目と同時に、「社会調査法 A」「社会調査法 B」「社会環境調査法」「社会統計学」といった調査系科目が配置されています。社会学において、理論と調査はどちらも欠かすことのできない重要なものであり、ぜひ両者をバランスよく学んでいただければと思います。社会学的な視点・発想を身につけていくためにも、「理論・方法」カテゴリーの選択科目は、必要単位数以上、履修することをお勧めします。

「トピックス」カテゴリーには、社会と文化に関するさまざまな応用科目が用意されており、基本から応用へとスムーズに展開していくことができるような科目構成になっています。

なお、プログラムの授業科目には入っていませんが、3年生で「専攻演習 I・II」(ゼミ)、4年生で「卒業論文」を履修し、社会学的なものの方・考え方をじっくりと養っていく取り組みを行うことを強く勧めます。

他のプログラムとの関係

社会学プログラムをメジャーとする場合、たとえば以下のプログラムをマイナーとして推奨します。ただし、これらはあくまで推奨例であって、社会学プログラムと組み合わせることが可能なプログラムは、これら以外にも多く存在します。

(1)アメリカ研究プログラム・アジア研究プログラム・日本研究プログラム・地域デザインプログラム。それぞれの地域の社会と文化についての研究という点で、社会学プログラムと共通点を持ちます。

(2)多文化共生プログラム。国籍や民族などの異なる人々がお互いの違いを認め合いながら、共に生きていくためには、自分の社会と文化を相対化する社会学的な視点が不可欠です。

留学・教職その他

・異文化との接触は社会学的な思考力を深めるために非常に有効です。留学・海外研修等を経験されることを強くお勧めします。

・教職については、中学社会、高校の地歴・公民の免許取得に必要な科目を提供しています。

学生へのメッセージ

社会学プログラムでは、社会と文化についての学びを通して、国際社会や地域社会において、自分の文化とは異なる多様な文化を理解し、互いの違いを認め合いながら共生していくことのできる、幅広い視野を備えた人材を育成します。

社会学は、社会と文化を研究する学問です。私たちにとって、自分の社会・文化は、とても身近な「あたりまえ」のものとなっており、日常生活の中では、社会・文化に関する「常識」的なものの方・考え方にとらわれることも少なくありません。社会学は、そうした「あたりまえ」の「常識」から一歩距離をとり、「常識」の背後に隠された世の中のしくみを解明しようとする学問なのです。ぜひ社会学のおもしろさを体験してみてください。

社会学プログラム

1 社会学プログラム履修モデル

社会学専攻プログラムは、「導入」「理論と方法」「トピックス」という3つのカテゴリーから構成されています。基本的には積み上げ型ではなく、自由履修型のカリキュラムですが、先修条件を課している科目もありますので(「導入」の「社会学の理論と応用」と、「理論と方法」の「社会学史Ⅱ」)、履修の際には注意しましょう。

社会学プログラム科目

Level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
導入				◎	社会学の理論と応用	2						
理論と方法				◎	社会学史Ⅰ	2	○	社会統計学	2			
				◎	社会学史Ⅱ	2	○	社会環境調査法	2			
				◎	社会調査法A(質的調査)	2	○	比較社会学B	2			
				◎	社会調査法B(量的調査)	2						
				○	比較社会学A	2						
トピックス	文化人類学の歴史と方法	2	○	家族社会学	2	○	現代社会研究B	2				
	情報と社会	2	○	ジェンダーの社会学	2	○	社会学特講	2				
			○	文化社会学A	2	○	環境社会学A(公書編)	2				
			○	文化社会学B	2	○	環境社会学B(現代編)	2				
			○	地域社会学A	2							
			○	地域社会学B	2							
			○	現代社会研究A	2							
			○	ジェンダーと開発	2							
			○	子どもと開発	2							
					2							
					社会・集団心理学	2						

※ あくまでもモデルなので、自分の興味・関心を深めるために自分で判断するようにしましょう。

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・ 社会探究(戦後日本の社会変動)[2]
- ・ 社会学概論[2]
- ・ 専攻演習Ⅰ[2]
- ・ 専攻演習Ⅱ[2]
- ・ 卒業論文[4]

社会学プログラム

2 社会学プログラム履修モデル

社会学プログラムは、「導入」「理論と方法」「トピックス」という3つのカテゴリーから構成されています。基本的には積み上げ型ではなく、自由履修型のカリキュラムですが、先修条件を課している科目もあります（「導入」の「社会学の理論と応用」と、「理論と方法」の「社会学史Ⅱ」）ので履修の際には注意しましょう。社会学は他のプログラムとの親和性が高く応用が可能です。こちらのモデルは自然科学・統合科学をメジャーにした場合のものです。

社会学プログラム科目

Level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
導入				○	社会学の理論と応用	2						
理論と方法				○	社会学史Ⅰ	2	○	社会統計学	2			
					社会学史Ⅱ	2	○	社会環境調査法	2			
				○	社会調査法A(質的調査)	2		比較社会学B	2			
				○	社会調査法B(量的調査)	2						
				○	比較社会学A	2						
トピックス		文化人類学の歴史と方法	2	○	家族社会学	2		現代社会研究B	2			
		情報と社会	2		ジェンダーの社会学	2		社会学特講	2			
				○	文化社会学A	2	○	環境社会学A(公害編)	2			
					文化社会学B	2		環境社会学B(現代編)	2			
				○	地域社会学A	2						
					地域社会学B	2						
					現代社会研究A	2						
					ジェンダーと開発	2						
					子どもと開発	2						
					社会・集団心理学	2						

※ あくまでもモデルなので、自分の興味・関心を深めるために自分で判断するようにしましょう。

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・ 社会探究(戦後日本の社会変動)[2]
- ・ 社会学概論[2]
- ・ 専攻演習Ⅰ[2]
- ・ 専攻演習Ⅱ[2]
- ・ 卒業論文[4]

社会学プログラム

3 社会学プログラム履修モデル

社会学プログラムは、「導入」「理論と方法」「トピックス」という3つのカテゴリーから構成されています。基本的には積み上げ型ではなく、自由履修型のカリキュラムですが、先修条件を課している科目もあります（「導入」の「社会学の理論と応用」と、「理論と方法」の「社会学史Ⅱ」）ので履修の際には注意しましょう。社会学は他のプログラムとの親和性が高く応用が可能です。こちらのモデルは人文科学系をメジャーにした場合のものであります。

社会学プログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
導入				○	社会学の理論と応用	2						
理論と方法				○	社会学史Ⅰ	2		社会統計学	2			
					社会学史Ⅱ	2		社会環境調査法	2			
				○	社会調査法A(質的調査)	2		比較社会学B	2			
				○	社会調査法B(量的調査)	2						
				○	比較社会学A	2						
トピックス		文化人類学の歴史と方法	2	○	家族社会学	2		現代社会研究B	2			
		情報と社会	2	○	ジェンダーの社会学	2		社会学特講	2			
				○	文化社会学A	2		環境社会学A(公害編)	2			
					文化社会学B	2		環境社会学B(現代編)	2			
				○	地域社会学A	2						
					地域社会学B	2						
				○	現代社会研究A	2						
					ジェンダーと開発	2						
					子どもと開発	2						
					社会・集団心理学	2						

※ あくまでもモデルなので、自分の興味・関心を深めるために自分で判断するようにしましょう。

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・ 社会探究(戦後日本の社会変動)[2]
- ・ 社会学概論[2]
- ・ 専攻演習Ⅰ[2]
- ・ 専攻演習Ⅱ[2]
- ・ 卒業論文[4]